

MACF 礼拝説教要旨

2023年7月9日

「ムナのたとえ」と「あなたの生き方」

ルカによる福音書 19章

11 人々がこれらのことに聞き入っているとき、

イエスは更に一つのたとえを話された。

エルサレムに近づいておられ、それに、人々が

神の国はすぐにも現れるものと思っていたからである。

12 イエスは言われた。「ある立派な家柄の人が、王の位を受けて
帰るために、遠い国へ旅立つことになった。

13 そこで彼は、十人の僕を呼んで十ムナの金を渡し、

『わたしが帰って来るまで、これで商売をきなさい』と言った。

14 しかし、国民は彼を憎んでいたので、後から使者を送り、

『我々はこの人を王にいただきたくない』と言わせた。

15 さて、彼は王の位を受けて帰って来ると、金を渡しておいた
僕を呼んで来させ、どれだけ利益を上げたかを知ろうとした。

16 最初の者が進み出て、『御主人様、あなたの一ムナで
十ムナもうけました』と言った。

17 主人は言った。『良い僕だ。よくやった。お前はごく小さな事に
忠実だったから、十の町の支配権を授けよう。』

18 二番目の者が来て、『御主人様、あなたの一ムナで五ムナ稼ぎました』と言った。

19 主人は、『お前は五つの町を治めよ』と言った。

20 また、ほかの者が来て言った。

『御主人様、これがあなたの一ムナです。布に包んでしまっておきました。

21 あなたは預けないものも取り立て、蒔かないものも刈り取られる厳しい方なので、恐ろしかったのです。』

22 主人は言った。『悪い僕だ。その言葉のゆえにお前を裁こう。

わたしが預けなかったものも取り立て、蒔かなかったものも

刈り取る厳しい人間だと知っていたのか。

23 ではなぜ、わたしの金を銀行に預けなかったのか。

そうしておけば、帰って来たとき、利息付きでそれを受け取れたのに。』

24 そして、そばに立っていた人々に言った。

『その一ムナをこの男から取り上げて、十ムナ持っている者に与えよ。』

25 僕たちが、『御主人様、あの人は既に十ムナ持っています』と言うと、 26 主人は言った。

『言っておくが、だれでも持っている人は、

更に与えられるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられる。

27 ところで、わたしが王になるのを望まなかったあの敵どもを、

ここに引き出して、わたしの目の前で打ち殺せ。』」

ザアカイとの出会いの続きで語られているイエス様のたとえ話です。イエス様は街の人たち、あるいは一般的なユダヤ人たちが「もうすぐ神の介入でローマを打ち滅ぼして神の国が訪れる」と考えていることを知って「たとえ」を話されました。

12 イエスは言われた。「ある立派な家柄の人が、王の位を受けて帰るために、遠い国へ旅立つことになった。とありますが、この出来事は当時の人たちがよく知っていることを土台にしていると言われています。

ヘロデ大王の死後の紀元前四年頃、彼の二人の息子アルケラオスとアンテパスがローマに上って、それぞれ自分をヘロデ大王の後継の王にしてくれるように皇帝に訴えるということがありました。ヘロデの息子のアルケラオスは自分の不在中のことをその家臣たちに委ねてローマに行きました。ただ、その間、実際にユダヤ人たちは皇帝に使いを送って、アルケラオスを王として認めないように嘆願していたのです。

彼はエルサレムで三千人のユダヤ人を虐殺するという残虐行為を行っていたからです。

その話に合わせるかたちでこのたとえ話をイエス様は始めます。

1) しもべへの 10 ムナ

- 13 そこで彼は、十人の僕を呼んで十ムナの金を渡し、
『わたしが帰って来るまで、これで商売をしなさい』と言った。
14 しかし、国民は彼を憎んでいたため、後から使者を送り、
『我々はこの人を王にいただきたくない』と言わせた。
15 さて、彼は王の位を受けて帰って来ると、金を渡しておいた僕を呼んで来させ、どれだけ利益を上げたかを知ろうとした。

これに似た話に「タラントンのたとえ話」があります。マタイによる福音書 25 章 14～29 節。王は、それぞれの力に応じて、ある人には五タラントン、ある人には、二タラントン、ある人には一タラントン渡した、そして、五タラントンの者は、別に五タラントン、二タラントンの者は、二タラントン儲けた、という話でした。

でも、ムナのたとえ話では、王となる人は、僕たちに、一ムナずつ渡してしばらくの間、留守にします。タラントンというのは、実は大きなお金で、一タラントンは、およそ 6000 日分の給料と言われます。つまり 16 年分の給料と等しい額です。

それに対して、一ムナというのは、100 日分の給料に相当します。約三ヶ月分の給料と同額。その王の僕 10 人にそれぞれ 1 ムナ渡されます。

2)それぞれの1ムナ

16 最初の者が進み出て、『御主人様、あなたの一ムナで十ムナもうけました』と言った。

17 主人は言った。『良い僕だ。よくやった。お前はごく小さな事に忠実だったから、十の町の支配権を授けよう。』

18 二番目の者が来て、『御主人様、あなたの一ムナで五ムナ稼ぎました』と言った。

19 主人は、『お前は五つの町を治めよ』と言った。

託された1ムナで10ムナもうけたしもべと、5ムナもうけた僕の話があり、それぞれ主人から褒められ、新しい使命を託されます。

3) 悪い僕

20 また、ほかの者が来て言った。

『御主人様、これがあなたの一ムナです。布に包んでしまっておきました。』

21 あなたは預けないものも取り立て、蒔かないものも刈り取られる厳しい方なので、恐ろしかったのです。』

22 主人は言った。『悪い僕だ。その言葉のゆえにお前を裁こう。』

わたしが預けなかったものも取り立て、蒔かなかったものも刈り取る厳しい人間だと知っていたのか。

23 ではなぜ、わたしの金を銀行に預けなかったのか。

そうしておけば、帰って来たとき、利息付きでそれを受け取れたのに。』

24 そして、そばに立っていた人々に言った。

『その一ムナをこの男から取り上げて、十ムナ持っている者に与えよ。』

この人の何がいけなかったのでしょうか。

まず、託された仕事をしていないこと。そして王に対する大きな誤解があって勝手に王様の人格を決めつけてしまっていたこと。

などでしょうか。

4) この1ムナとは

さて、この僕たちに託された「ムナ」とはなんのことなのでしょう。

「タラント」は「賜物」のことと理解されていますが、「ムナ」は「賜物」ではなさそうです。というのも同じ「1ムナ」だからです。

それぞれに等しく渡されている「1ムナ」

私たちが神様から等しく託されている「ムナ」

この1ムナによって10ムナ、5ムナと、もうけたわけですが、

ある人は「神様から託された聖書の言葉」と言い、別の人には「信仰」と教えています。

ザアカイの出来事から考えてみると、ザアカイに提供された「新しい心」「神様の愛と

その教えに応答できる心」「これをどうぞ・ごめんなさい・ありがとうと言える心」
かもしれません。

それによって「広がる祝福」こそがムナの増加と言えます。

それに対して「1 ムナを隠した僕」に対して厳しい言葉が語られているのですが、
自らの心を閉ざし、分かち合うことをしませんでした。

さらに、この僕は

『御主人様、これがあなたの1 ムナです。布に包んでしまっておきました。

21 あなたは預けないものも取り立て、蒔かないものも刈り取られる
厳しい方なので、恐ろしかったのです。』

この人は「主人を恐ろしい存在、厳しいだけの存在」と考えています。

ですから、絶対に失敗してはならないと感じており、受け取ったものへの

喜びも、使命もありませんでした。さらにいえば、「商売しなさい」と言われていた
のに、隠しておいたわけですから、その託された内容を無視していたわけです。

つまり、この人にとっての1 ムナとは「あってもなくても、どうでも良いもの」

「形式的に保持していれば、それで良いと感じていたもの」でした。

それは多くの律法主義者、ファリサイ派の人たちの姿だったかもしれません。

だからこそ、それを大いに大切なものと感じている人のところに、それが
渡されてしまうことになるのです。

5) ムナとあなたの生き方

「小さなことに忠実」とありますから、日常的な生活における

立ち居振る舞いなど考えることは妥当性があると思います。

私たちの「立ち居振る舞い」がムナを増やすことに繋がっているのです。

王様の心をしっかり受け止めて、その関係を健全なものにしながら

前向きに生きていくことの中にムナの倍増が必然的に起こってきます。

逆に競争があると萎縮がはじまり、ムナを共有できる場が減少します。

献金額、出席率、何人人を誘ったか、などが競争材料となってしまうと

本当に伸びやかな「神からの愛で生かされ、心優しく人と生きる」姿勢が
萎えてしまうことが多いのです。

ムナは競争によってではなく、忠実な、誠実な生き様によって、倍増して
いくものようです。

「神様との絆」「人との絆」を感謝の心で深めていく姿勢が育ちますように。

**

「MACF 礼拝」はこちらです

https://youtu.be/Rn0_dbHhDS8